

令和 2 年 7 月 14 日現在

機関番号：32409

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K08654

研究課題名(和文) 乳腺神経内分泌癌の発生機構および新規診断・治療法に関する病理学的解析

研究課題名(英文) Pathological analyses of the developmental mechanism and novel diagnostic and therapeutic methods in neuroendocrine mammary carcinomas

研究代表者

川崎 朋範 (Kawasaki, Tomonori)

埼玉医科大学・医学部・教授

研究者番号：90456484

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：1) 乳腺神経内分泌癌(B-NEC)は、内分泌療法や化学療法感受性を伴って予後良好とみなされてきたが、非特殊型浸潤癌と比較し、侵襲性の臨床経過を辿ることを示した。
2) B-NECの浸潤前病変として神経内分泌型非浸潤性乳管癌の臨床・病理学的意義、生物学的特性、細胞学的特徴を明らかにした(Best Poster Award of IAC, 2019)。
3) B-NECの発生機構に関し、背景乳腺組織に異型のない神経内分泌細胞が広く分布する神経内分泌細胞過形成の概念を提唱し、前癌病変としての意義を初めて示した。さらに、皮膚の類縁疾患(EMPSGC)においても同病態が発生に関与していることを初めて報告した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

B-NECは独特な臨床像、画像所見、病理学的特徴を示す浸潤性乳癌の特殊型であり、発生機構および治療法が近年注目されている。本腫瘍は通常型の乳癌と比較し悪性度がしばしば高く、分子標的薬をはじめ新規治療の確立が求められる。組織発生に関し、癌の異分化と一般に考えられているが、神経内分泌形質の獲得は様々な段階で起こり、さらに多発病変のバックグラウンドとなる神経内分泌細胞過形成、良性乳管内増殖性病変との関連性等、複数のメカニズムが関与する。これはB-NECの自然史を解明する上で重要であり、治療法に一石を投じる可能性がある。浸潤前病変であるNE-DCISは、過小診断されやすいという診断学的意義も有する。

研究成果の概要(英文)：1) Although breast neuroendocrine neoplasm (B-NEN) had been considered to have a favorable prognosis with sensitivity to hormonal treatments and chemotherapy, we demonstrated B-NENs to follow a more aggressive clinical course, even though most immuno-express ER/PgR with negativity for HER2, as compared to invasive mammary carcinomas of no special type.
2) We clarified the clinical significance, biological characteristics and cytopathological features of neuroendocrine ductal carcinoma in situ (NE-DCIS) as a pre-invasive counterpart of B-NENs (Best Poster Award of ICC/International Academy of Cytology, 2019).
3) NE cell hyperplasia, i.e. isolated/scattered, clustered and/or circumferential proliferations of normal-looking NE cells, could appear in the mammary tissues and be associated with the development of B-NENs. This novel observation of NE cells and patterns in non-neoplastic breast epithelia has implications for understanding of B-NEN carcinogenesis as well as for future therapies.

研究分野：乳腺病理学

キーワード：乳腺 神経内分泌癌 神経内分泌腫瘍 乳癌 特殊型 人体病理学 臨床細胞学 免疫組織化学

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

神経内分泌形質を有する乳癌は、WHO 分類 (2012 年) において、消化管や肺の神経内分泌腫瘍と類似の形態を示し、神経内分泌マーカーを発現する浸潤性乳癌の特殊型と定義され、1) Neuroendocrine tumor (NET), well-differentiated, 2) Neuroendocrine carcinoma (NEC), poorly differentiated/Small cell carcinoma, 3) Invasive carcinoma with neuroendocrine differentiation の 3 型に分類されている。しかし、神経内分泌陽性細胞率の定義がなく、診断基準が曖昧で、さらに large cell NEC、mucinous NEC 等の亜分類も考慮する必要がある。なお、本邦の乳癌取り扱い規約 (2012 年) において、本腫瘍群を特殊型として位置付けていない。

一方、神経内分泌特徴を有する非浸潤癌に関しては、非浸潤性乳管癌の unusual variants の 1 つとしてわずかに記載されているのみで、その臨床病理学的意義は明らかでなかった。それ故、我々は神経内分泌型非浸潤性乳管癌 (Neuroendocrine ductal carcinoma *in situ*, NE-DCIS) を提唱し、non-NE-DCIS との比較分析を行う中で、その独特な臨床像、画像所見、病理学的特徴を明確にし、DCIS における特殊亜型、および、B-NEN における preinvasive counterpart としての意義を示した [*Histopathology*, 2008. *Cytopathology*, 2011. *Pathol Int*, 2011. *Breast*, 2012. *USCAP*, 2010(x2)]。

B-NEN の発生機構に関し、正常乳腺組織内に神経内分泌細胞が通常みられないことから、癌の divergent differentiation という考え方が一般的であるが、我々は B-NEN の発生に “Neuroendocrine cell hyperplasia” と称すべき病態が関与することを発見した (*J Clin Pathol*, 2012. *USCAP*, 2012 等)。

2. 研究の目的

今回、我々は、B-NEN の発生機構の解明をメイン・テーマとして病理学的解析を行うとともに、本腫瘍の生物学的特性に関する臨床病理学的分析、新亜分類の提唱、臨床応用への発展をテーマに研究を行った。

3. 研究の方法

1) B-NEN の発生機構に関し、かつては胎生期の神経堤から乳腺上皮組織に移植されたものと信じられていたが、正常乳腺組織内に神経内分泌細胞はほとんど存在しないことから、現在では癌の神経内分泌分化という考え方が一般的である。しかし、我々は NE-DCIS に関する病理学的分析を行う中で、その背景乳腺組織に異型のない神経内分泌細胞が、孤在性 / 散在性、集塊状ないし円周状パターンで広く存在することを発見した。この神経内分泌細胞過形成 (Neuroendocrine cell hyperplasia) と称すべき新概念を検証すべく、乳房全摘術を施行された B-NEN、B-non-NEN の各組織型について、背景における神経内分泌細胞の存在・局在を詳細に分析した。

2) 皮膚における NE-DCIS の counterpart である endocrine mucin-producing sweat gland carcinoma を我々は本邦からはじめて報告したが (*Pathol Int*, 2012)、本疾患の背景に関しても同様の検討を行った。

3) B-NEN ならびに NE-DCIS の細胞病理学的特徴および診断学的意義に関し、多数例 (36 症例) を用いて分析した。

4) 浸潤性乳癌 1612 症例を、B-NEN (免疫組織化学的にクロモグラニン A ないしシナプトフィジンが 50% をこえる癌細胞に発現) 90 症例と B-non-NEN 1522 症例に分け、B-NEN の臨床病理学的所見を、B-non-NEN のデータと比較分析して検討を行った。

5) NEN 以外の特殊型乳癌や乳腺疾患に関しても検討した。

4. 研究成果

1) Neuroendocrine cell hyperplasia の病態が一部 (22%) の B-NEN の背景乳腺組織にみられ、B-non-NEN の背景には観察されないことをはじめに報告し、B-NEN における前癌病変としての意義を示した (*J Clin Pathol*, 2012. *USCAP*, 2012. *ECP*, 2013 & 2019. *日本病理学会総会*, 2018 等)。本病態を有する症例は NE-DCIS がしばしば多発し、治療法に示唆を与えうる。

2) 皮膚 / 眼瞼の endocrine mucin producing sweat gland carcinoma (*Pathol Int*, 2012: 本邦から初報告) (NE-DCIS の counterpart) においても、その発生に同病態が関与していることをはじめに報告した (*Pathology*, 2018. *ECP*, 2018 & 2019. *日本病理学会総会*, 2017 & 2018 - English oral presentation-. *国立病院総合医学会*, 2018 等)。

3) B-NEN の細胞病理学的特徴を明らかにし (*Cytopathology*, 2011. *USCAP*, 2010. *ECP*, 2019 等)、国際細胞学会でベストポスター賞を受賞した (*ICC/International Academy of Cytology*, 2019)。

4) 浸潤性 B-NEN の特徴的な臨床像 (腫瘍触知、血性乳頭分泌症状等) および病理学的所見 [小

腫瘍浸潤径、低核グレード、低病期、壊死 (-)、炎症反応 (-)、石灰化 (-)、エストロゲン受容体陽性、プロゲステロン受容体陽性、HER2 陰性等] を明確に示した。高悪性度 B-NEN とみなされる術後再発症例が 14%、死亡症例が 9% にみられ (観察期間の中央値: 6 年) 遠隔転移は肝、骨に多く (70%) 死因は肝不全が多かった (83%)。B-NEN は、内分泌療法や化学療法の感受性を伴って予後良好とみなされてきたが、非特殊型浸潤癌と比較し、侵襲性の臨床経過を辿ることを示した (ECP, 2014 & 2020, USCAP, 2012 等)。一環として、巨大腫瘍塞栓 (*Histopathology*, 2014 . ECP, 2018 & 2020. 日本病理学会総会, 2017 等)、癌性リンパ管症 (*Pathol Int*, 2016 . ECP, 2018. 日本病理学会総会, 2017. 日本乳癌学会学術総会, 2017 等)、扁平上皮分化 (*Histopathology*, 2013 & 2015 . ECP, 2018. 国立病院総合医学会, 2017. 日本乳癌学会学術総会, 2018 等)、トリプルネガティブ / 基底細胞分化 (*Pathol Int*, 2019. ECP, 2018 & 2019 等) を示す B-NEN をはじめて報告した。

5) きわめて稀な乳腺 lymphoepithelioma-like carcinoma の細胞病理学的特徴を分析し、その診断学的意義およびピットフォール、治療効果・予後予測因子として注目されている tumor-infiltrating lymphocytes (TIL) との密接な関連性について提示した (*Cytopathology*. 2017 . ECP, 2017. ICC, 2019 等)。特殊型乳癌である腺様嚢胞癌において、診断に有用な免疫組織化学パネルを考案し、真腔・偽腔の同定に高分子ケラチンの paradoxical pattern が特異的であることをはじめて報告した (*Virchows Arch*, 2016. USCAP, 2016)。そのほか、特殊型乳癌の中でも exceptionally rare types and variants に関し、腫瘍病理鑑別診断アトラス - 乳癌 - 第 2 版 (文光堂, 東京) において執筆した。さらに、新版 細胞診断学入門 - 臨床検査技師・細胞検査士をめざす人のために 第 部 各論「5 乳腺」(名古屋大学出版会, 名古屋) を執筆した。近年、我々は needle implantation から再発した B-NEN をはじめて報告した (*Virchows Arch*, 2015. ECP, 2015 & 2020. 日本内分泌病理学会トラベルグラント賞, 2015 等) が、同様の機序で再発を来した良性の乳管内乳頭腫を分子病理学的観点から分析した (ECP, 2016)。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計24件（うち査読付論文 24件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Kawasaki Tomonori, Hasebe Takahiro, Oiwa Mikinao, Sugiyama Keiji, Muramatsu Chisako, Ueda Shigeto, Osaki Akihiko, Ichikawa Jiro, Teramoto Norihiro, Hoshida Yoshihiko	4. 巻 69
2. 論文標題 Invasive carcinoma with neuroendocrine differentiation of the breast showing triple negative, large and basal cell like features	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Pathology International	6. 最初と最後の頁 502 ~ 504
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pin.12832	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Kawasaki Tomonori, Kubota Toshinobu, Ichihara Shu, Horibe Keizo, Hasebe Takahiro	4. 巻 50
2. 論文標題 Neuroendocrine cells associated with endocrine mucin-producing sweat gland carcinoma: a potential precursor lesion?	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Pathology	6. 最初と最後の頁 573 ~ 575
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pathol.2018.01.008	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Ichikawa Jiro, Ando Takashi, Kawasaki Tomonori, Sasaki Tomoyuki, Shirai Toshiaki, Tsukiji Nagaharu, Kimura Yujiro, Aoki Kaoru, Hayakawa Keiko, Suzuki Inoue Katsue, Saitoh Masao, Haro Hirota	4. 巻 in press
2. 論文標題 Role of Platelet C Type Lectin Like Receptor 2 in Promoting Lung Metastasis in Osteosarcoma	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Bone and Mineral Research	6. 最初と最後の頁 in press
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/jbmr.4045	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Satou Akira, Tabata Tetsuya, Miyoshi Hiroaki, Kohno Kei, Suzuki Yuka, Yamashita Daisuke, Shimada Kazuyuki, Kawasaki Tomonori, Sato Yasuharu, Yoshino Tadashi, Ohshima Koichi, Takahara Taishi, Tsuzuki Toyonori, Nakamura Shigeo	4. 巻 32
2. 論文標題 Methotrexate-associated lymphoproliferative disorders of T-cell phenotype: clinicopathological analysis of 28 cases	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Modern Pathology	6. 最初と最後の頁 1135 ~ 1146
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41379-019-0264-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hashimoto Kosuke, Kaira Kyoichi, Kawasaki Tomonori, Yamaguchi Ou, Kagamu Hiroshi	4. 巻 139
2. 論文標題 Psuedoprogession mimicking hyperprogressive disease after pembrolizumab treatment in a patient with lung cancer	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Lung Cancer	6. 最初と最後の頁 221 ~ 223
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.lungcan.2019.11.019	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamaguchi Ou, Kaira Kyoichi, Kawasaki Tomonori, Mouri Atsuto, Hashimoto Kosuke, Shiono Ayako, Shinomiya Shun, Miura Yu, Nishihara Fuyumi, Murayama Yoshitake, Kobayashi Kunihiko, Mochida Satoshi, Kagamu Hiroshi	4. 巻 11
2. 論文標題 Severe hepatotoxicity due to osimertinib after nivolumab therapy in patients with non small cell lung cancer harboring EGFR mutation	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Thoracic Cancer	6. 最初と最後の頁 1045 ~ 1051
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/1759-7714.13363	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sasaki Katsuhito, Nakamura Yasuhiro, Baba Natsuki, Teramoto Yukiko, Asami Yuri, Kaira Kyoichi, Kagamu Hiroshi, Kawasaki Tomonori, Arai Eiichi, Yamamoto Akifumi	4. 巻 47
2. 論文標題 Verrucous skin lesion caused by neuropathy misdiagnosed as squamous cell carcinoma and treated with amputation surgery	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Journal of Dermatology	6. 最初と最後の頁 e188-e190
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/1346-8138.15286	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Oyama T, Asai T, Kawasaki T, et al.	4. 巻 in press
2. 論文標題 A Case of Cerebral Tumor Embolism from Extracardiac Lung Cancer Treated by Mechanical	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 NMC case report journal	6. 最初と最後の頁 in press
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kubota Toshinobu, Kawasaki Tomonori	4. 巻 10
2. 論文標題 Possible dissemination of conjunctival melanoma along tear flow path	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 American Journal of Ophthalmology Case Reports	6. 最初と最後の頁 122 ~ 123
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ajoc.2018.02.017	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Suzuki Yuka, Ichihara Shu, Kawasaki Tomonori, Yanai Hiroyuki, Kitagawa Satoshi, Shimoyama Yoshie, Nakamura Shigeo, Nakaguro Masato	4. 巻 473
2. 論文標題 -catenin (CTNNB1) mutation and LEF1 expression in sinonasal glomangiopericytoma (sinonasal-type hemangiopericytoma)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Virchows Archiv	6. 最初と最後の頁 235 ~ 239
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00428-018-2370-9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nemoto Michiko, Hattori Hiroyoshi, Maeda Naoko, Akita Nobuhiro, Muramatsu Hideki, Moritani Suzuko, Kawasaki Tomonori, Maejima Masami, Ode Hiroataka, Hachiya Atsuko, Sugiura Wataru, Yokomaku Yoshiyuki, Horibe Keizo, Iwatani Yasumasa	4. 巻 8
2. 論文標題 Compound heterozygous TYK2 mutations underlie primary immunodeficiency with T-cell lymphopenia	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 6956
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-018-25260-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Oiwa Mikinao, Endo Tokiko, Suda Namiko, Morita Takako, Sato Yasuyuki, Kawasaki Tomonori, Ichihara Shu	4. 巻 26
2. 論文標題 Can quantitative evaluation of mammographic breast density, " volumetric measurement ", predict the masking risk with dense breast tissue? Investigation by comparison with subjective visual estimation by Japanese radiologists	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Breast Cancer	6. 最初と最後の頁 349 ~ 358
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s12282-018-0930-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiroaki Hagiwara, Tomohiro Nakayama, Tomonori Kawasaki	4. 巻 71
2. 論文標題 Left Atrial Myxoma with Ossification; Report of a Case	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Kyobu Geka	6. 最初と最後の頁 223-226
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 2018188997	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Chisako Muramatsu, Mikinao Oiwa, Tomonori Kawasaki, Hiroshi Fujita	4. 巻 11513
2. 論文標題 Breast mass image retrieval based on multimodality similarity estimation	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 PROCEEDINGS OF SPIE	6. 最初と最後の頁 26-1-26-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鳥居厚志, 沖昌英, 堀和美, 中畑征史, 岡さおり, 小暮啓人, 北川智余恵, 川崎朋範, 市原周, 坂英雄	4. 巻 40
2. 論文標題 19ゲージ針を用いた超音波気管支鏡下穿刺吸引生検法 (EBUS-TBNA) で診断した肺過誤腫の1例	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 気管支学	6. 最初と最後の頁 196 200
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 2018309980	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 下坂 馨歩, 駒野 淳, 浅香 敏之, 今村 淳治, 横幕 能行, 片山 雅夫, 川崎 朋範, 下坂 寿希, 亀井 克彦, 矢田 啓二	4. 巻 60
2. 論文標題 ベトナム人HIV陽性者から分離された<I>Talaromyces marneffeii</I>によるマルネツフェイ型ペニシリウム症の1例	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本医真菌学会雑誌	6. 最初と最後の頁 15 ~ 20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.11534/ishinkin.18-00008	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Naoki SUNAGUCHI, Daisuke SHIMAO, Shu ICHIHARA, Tomonori KAWASAKI, Kensaku MORI, Tetsuya YUASA, Masami ANDO	4. 巻 36
2. 論文標題 Refraction-contrast X-ray CT for Analyzing Three-dimensional Structures of Pathological Samples	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 MEDICAL IMAGING TECHNOLOGY	6. 最初と最後の頁 107-112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 2019044024	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sato A., Kawasaki T. (corresponding author), Abo-Yashima A., Yoshida T., Kobayashi S., Kashiwaba M., Sugai T., Ichihara S.	4. 巻 28
2. 論文標題 Cytological features of lymphoepithelioma-like carcinoma of the breast	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Cytopathology	6. 最初と最後の頁 169 ~ 172
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/cyt.12363	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shimao Daisuke, Sunaguchi Naoki, Sasaya Tenta, Yuasa Tetsuya, Ichihara Shu, Kawasaki Tomonori, Ando Masami	4. 巻 44
2. 論文標題 Imaging with ultra-small-angle X-ray scattering using a Laue-case analyzer and its application to human breast tumors	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Physica Medica	6. 最初と最後の頁 236 ~ 242
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ejmp.2017.10.018	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Suzuki Yuka, Ichihara Shu, Kawasaki Tomonori, Yanai Hiroyuki, Kitagawa Satoshi, Shimoyama Yoshie, Nakamura Shigeo, Nakaguro Masato	4. 巻 in press
2. 論文標題 -catenin (CTNNB1) mutation and LEF1 expression in sinonasal glomangiopericytoma (sinonasal-type hemangiopericytoma)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Virchows Archiv	6. 最初と最後の頁 in press
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00428-018-2370-9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野村順一, 菅原淳, 石垣大哉, 藤原俊朗, 川崎朋範, 小笠原邦昭	4. 巻 27
2. 論文標題 腰椎穿刺後に硬膜内くも膜外に発生した類上皮腫の1例	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 脳神経外科速報	6. 最初と最後の頁 297 ~ 300
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakai Tokiko, Kawasaki Tomonori (corresponding author), Tada Takashi, Ishida Motoo, Iwakoshi Akari, Enomoto Atsushi, Okuda Satoshi, Takahashi Masahide, Ambo Jun-ichi, Sugai Tamotsu, Ohbayashi Chiho, Ichihara Shu	4. 巻 66
2. 論文標題 Well-differentiated neuroendocrine tumor of the breast with extensive lymphatic and vascular infiltration	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Pathology International	6. 最初と最後の頁 706 ~ 707
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pin.12471	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakai Tokiko, Ichihara Shu, Kada Akiko, Ito Noriko, Moritani Suzuko, Kawasaki Tomonori, Uchiyama Tomoko, Itami Hiroe, Morita Kouhei, Takano Masato, Takeda Maiko, Hatakeyama Kinta, Ohbayashi Chiho	4. 巻 469
2. 論文標題 The unique luminal staining pattern of cytokeratin 5/6 in adenoid cystic carcinoma of the breast may aid in differentiating it from its mimickers	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Virchows Archiv	6. 最初と最後の頁 213 ~ 222
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00428-016-1963-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sugimoto Ryo, Sugai Tamotsu, Habano Wataru, Endoh Masaki, Eizuka Makoto, Yamamoto Eiichiro, Uesugi Noriyuki, Ishida Kazuyuki, Kawasaki Tomonori, Matsumoto Takayuki, Suzuki Hiromu	4. 巻 138
2. 論文標題 Clinicopathological and molecular alterations in early gastric cancers with the microsatellite instability-high phenotype	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 International Journal of Cancer	6. 最初と最後の頁 1689 ~ 1697
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/ijc.29916	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計176件（うち招待講演 37件／うち国際学会 29件）

1. 発表者名 Tomonori Kawasaki, Ryohei Katoh, Tetsuo Kondo, Keizo Horibe, Hirokazu Nagai, Masahide Takahashi
2. 発表標題 Solid papillary neuroendocrine carcinoma of the breast - cytopathological features in 36 cases (The Best Poster Award of The International Academy of Cytology)
3. 学会等名 20th International Congress of Cytology (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tomonori Kawasaki, Takahiro Hasebe, Kumiko Nakazawa, Tadao Nakazawa, Tetsuo Kondo, Ryohei Katoh, Keizo Horibe, Mikinao Oiwa
2. 発表標題 Cytopathological features of pleomorphic lobular mammary carcinoma in situ
3. 学会等名 20th International Congress of Cytology (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tomonori Kawasaki, Takahiro Hasebe, Akiko Abo-Yashima, Tamotsu Sugai, Chisako Muramatsu, Jiro Ichikawa, Masao Saitoh
2. 発表標題 Cytopathological features of lymphoepithelioma-like mammary carcinoma
3. 学会等名 20th International Congress of Cytology (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tomonori Kawasaki, Anna Sapino, Motoo Ishida, Takashi Tada, Hideki Matsuya, Hiroshi Nakagomi, Toshio Oyama, Chisako Muramatsu, Jiro Ichikawa, Masao Saitoh, Tetsuo Kondo, Ryohei Katoh, Tamotsu Sugai, Yasuhiro Nakamura and Kyoichi Kaira
2. 発表標題 Neuroendocrine neoplasms of the breast showing peculiar forms of recurrence and/or metastasis
3. 学会等名 32nd Congress of the European Society of Pathology and XXXIII International Congress of the International Academy of Pathology (国際学会)
4. 発表年 2020年

1 . 発表者名 Tomonori Kawasaki, Ryo Taguchi, Hironori Ishida, Yuki Ichinose, Asami Nukui, Kazuo Matsuura, Takahiro Hasebe, Takashi Hojo, Akihiko Osaki, Yasuhiro Nakamura, Tetsuo Kondo, Kousuke Hashimoto, Ou Yamaguchi, Kyoichi Kaira, Hiroshi Kagamu and Toshiaki Saeki
2 . 発表標題 Neuroendocrine tumor of the breast with pulmonary metastasis 30 years after mastectomy
3 . 学会等名 32nd Congress of the European Society of Pathology and XXXIII International Congress of the International Academy of Pathology (国際学会)
4 . 発表年 2020年

1 . 発表者名 Tomonori Kawasaki, Norihiro Teramoto, Yoshihiko Hoshida, Yuya Murata, Keiji Sugiyama, Mikinao Oiwa, Chisako Muramatsu, Jiro Ichikawa, Ikuko Sugitani, Shigeto Ueda, Takahiro Hasebe, Akihiko Osaki, Kyoichi Kaira
2 . 発表標題 Invasive carcinoma with neuroendocrine differentiation of the breast showing triple negative, large and basal cell-like features
3 . 学会等名 31st European Congress of Pathology (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Tomonori Kawasaki, Toshinobu Kubota, Ryohei Katoh, Tetsuo Kondo, Shu Ichihara, Keizo Horibe, Hirokazu Nagai, Masahide Takahashi
2 . 発表標題 Neuroendocrine cells relevant to endocrine mammary and cutaneous carcinomas: nature and significance
3 . 学会等名 31st European Congress of Pathology (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Tomonori Kawasaki, Shigeto Ueda, Yuki Ichinose, Eiko Hirokawa, Hiroko Shimada, Ikuko Sugitani, Hiroshi Sano, Takahiro Hasebe, Takao Takahashi, Akihiko Osaki, Toshiaki Saeki, Yoichi Oikawa, Ikuo Inoue, Mitsuhiko Noda, Akira Shimada, Yoji Nagashima, Makoto Urano, Makoto Kuroda, Toshiaki Utsumi, Takanori Hayashi
2 . 発表標題 High-molecular-weight insulin-like growth factor 2 secreting phyllodes tumor of the breast presenting as a hypoglycemic attack
3 . 学会等名 31st European Congress of Pathology (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Tomonori Kawasaki, Ryohei Katoh, Tetsuo Kondo, Keizo Horibe, Hirokazu Nagai, Masahide Takahashi
2 . 発表標題 Solid papillary neuroendocrine carcinoma of the breast - cytopathological features in 36 cases
3 . 学会等名 31st European Congress of Pathology (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Kawasaki T, Tada T, Ishida M, Matsuya H, Sanada M, Hasebe T, Kawada K, Iwatani Y
2 . 発表標題 Neuroendocrine tumour of the breast showing carcinomatous lymphangiosis
3 . 学会等名 30th European Congress of Pathology/VIRCHOWS ARCHIV, 473, S211 (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Kawasaki T, Hasebe T, Oyama T, Yasuda M, Nakagomi H, Inoue M, Tsunoda H, Endo T, Furuya K, Bussolati G, Sapino A
2 . 発表標題 Well-differentiated neuroendocrine tumour of the breast showing peculiar endovascular spread
3 . 学会等名 30th European Congress of Pathology/VIRCHOWS ARCHIV, 473, S209 (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Kawasaki T, Hasebe T, Ichihara S, Oiwa M, Sato Y, Morita T, Hayashi T, Kato A, Sugiyama K, Nozawa K, Enomoto A, Takahashi M, Horibe K, Naoe T, Osaki A, Saeki T
2 . 発表標題 Large cell neuroendocrine carcinoma of the breast showing triple negative, basal-like subtype
3 . 学会等名 30th European Congress of Pathology/VIRCHOWS ARCHIV, 473, S208 (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Kawasaki T, Hasebe T, Kondo T, Katoh R, Inoue S, Fujii H, Sano K, Oiwa M, Endo T, Osaki A, Saeki T, Kashiwaba M, Bussolati G, Sapino A
2 . 発表標題 Small-cell carcinoma of the breast with squamous differentiation
3 . 学会等名 30th European Congress of Pathology/VIRCHOWS ARCHIV, 473, S208 (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Kawasaki T, Kubota T, Arai E, Ichihara S, Yata K, Nakaguro M, Kuroda M, Katoh R, Takahashi M, Horibe K, Naoe T, Hasebe T
2 . 発表標題 Neuroendocrine cells associated with endocrine mucin-producing sweat gland carcinoma - a potential precursor lesion?
3 . 学会等名 30th European Congress of Pathology/VIRCHOWS ARCHIV, 473, S182 (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Kazuki Nozawa, Keiji Sugiyama, Kazuhiro Shiraishi, Yoriko Funahashi, Yoshihito Kogure, Tomonori Kawasaki
2 . 発表標題 Adjuvant chemotherapy for HER2-positive early breast cancer patients without perioperative radiotherapy in trastuzumab era
3 . 学会等名 JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY, 36 (15) (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Hoshida Yoshihiko, Ohshima Shiro, Saeki Yukihiko, Kawasaki Tomonori, Ichihara Shu, Kurosawa Mitsutoshi, Kuraoka Kazuya, Taguchi Ken-ichi, Tohma Shigeto
2 . 発表標題 Clinicopathological analysis of LPD that developed in patients with RA receiving calcineurin inhibitors
3 . 学会等名 CANCER SCIENCE, 109, 507 (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Chisako Muramatsu,Shunichi Higuchi,Takako Morita,Mikinao Oiwa,Tomonori Kawasaki,Hiroshi Fujita
2 . 発表標題 Retrieval of reference images of breast masses on mammograms by similarity space modeling
3 . 学会等名 14th International Workshop on Breast Imaging, IWBI 2018, Atlanta, Georgia, USA, 8-11 July 2018 1071809 (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Chisako Muramatsu, Shunichi Higuchi, Takako Morita, Mikinao Oiwa, Tomonori Kawasaki, Hiroshi Fujita
2 . 発表標題 Image Retrieval of Breast Masses on Ultrasound Images
3 . 学会等名 SPIE Medical Imaging 2019 (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Chisako Muramatsu, Mikinao Oiwa, Takako Morita, Tomonori Kawasaki, Hiroshi Fujita
2 . 発表標題 Multimodality breast mass classification using CNN-based similarity estimation
3 . 学会等名 Yogyakarta, Indonesia (国際学会)
4 . 発表年 2020年

1 . 発表者名 Hattori Hiroyoshi, Nemoto Michiko, Maeda Naoko, Akita Nobuhiro, Moritani Suzuko, Muramatsu Hideki, Kawasaki Tomonori, Maejima Masami, Ode Hirotaka, Hachiya Atsuko, Sugiura Wataru, Yokomaku Yoshiyuki, Iwatani Yasumasa, Horibe Keizo
2 . 発表標題 Novel Compound Heterozygous TYK2 Mutations in Primary Immunodeficiency with T-Cell Lymphopenia
3 . 学会等名 The 50th Congress of the International Society of Paediatric Oncology (SIOP)/PEDIATRIC BLOOD & CANCER, 65, S45 (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1. 発表者名 川崎朋範, 加藤良平, 長谷部孝裕, 大崎昭彦, 佐伯俊昭
2. 発表標題 シンポジウム『乳腺腫瘍の正確な病理診断を目指して』 神経内分泌形質を有する乳癌
3. 学会等名 第27回日本乳癌学会学術総会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川崎朋範
2. 発表標題 シンポジウム「Neuroendocrine neoplasms (NEN) の臓器横断的病理診断の確立に向けて」
3. 学会等名 第7回神経内分泌腫瘍研究会学術集会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川崎朋範
2. 発表標題 乳癌特殊型の臨床・病理学的意義の解明および新分類の提唱 (国立病院機構共同臨床研究 H29-NH0 (癌般) -01 川崎班)
3. 学会等名 臨床研究推進委員会作業部会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川崎朋範
2. 発表標題 H29-NH0(癌般) -01 「乳癌特殊型の臨床・病理学的意義の解明および新分類の提唱」
3. 学会等名 2019年度第1回NH0ネットワーク共同研究 がん(一般)領域グループ会議 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川崎朋範
2. 発表標題 国立病院機構 (NHO) 共同臨床研究 NHOネットワーク共同研究
3. 学会等名 令和元年度第2回NHOネットワーク共同研究がん一般グループ会議 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川崎朋範
2. 発表標題 乳腺・甲状腺腫瘍の細胞診
3. 学会等名 腫瘍セミナー in Saitama (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川崎朋範, 寺本典弘, 星田義彦, 伊東正博, 村田有也, 倉岡和矢, 谷山清己, 大岩幹直, 堀部敬三, 永井宏和
2. 発表標題 乳腺における神経内分泌腫瘍 - Neuroendocrine mammary neoplasms
3. 学会等名 第73回国立病院総合医学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川崎朋範, 久保田敏信, 堀部敬三, 永井宏和, 菅野恵士, 鎌田孝一, 新井栄一, 猪爪隆史, 近藤哲夫, 加藤良平
2. 発表標題 Neuroendocrine cells associated with endocrine mucin-producing sweat gland carcinoma--a potential precursor lesion?
3. 学会等名 第23回日本臨床内分泌病理学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tomonori Kawasaki, Motoo Ishida, Takashi Tada, Hideki Matsuya, Norihiro Teramoto, Yoshihiko Hoshida, Yuya Murata, Masahiro
2. 発表標題 Well-differentiated neuroendocrine tumor of the breast with recurrence due to needle tract seeding
3. 学会等名 第50回埼玉群馬乳腺疾患研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川崎朋範, 佐藤次生, 新井栄一, 伊藤梢絵, 福田桃子, 浜田芽衣, 矢野光剛, 永田耕治, 安田政実, 田丸淳一
2. 発表標題 男性乳腺原発の濾胞性リンパ腫
3. 学会等名 第108回日本病理学会総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川崎朋範, 佐野弘, 上田重人, 杉谷郁子, 島田浩子, 廣川詠子, 近藤奈美, 長谷部孝裕, 大崎昭彦, 高橋孝郎, 鎌田孝一, 伊藤梢絵, 佐藤次生, 新井栄一, 田丸淳一, 塚崎邦弘, 高橋直樹, 市川二郎, 齋藤正夫, 佐伯俊昭
2. 発表標題 Follicular lymphoma of the male breast
3. 学会等名 第27回日本乳癌学会学術総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川崎朋範、市川二郎
2. 発表標題 希少がん 骨軟部肉腫における増殖・転移メカニズムの解明に基づく血小板をターゲットにした新規治療法の開発
3. 学会等名 公益財団法人 川野小児医学奨学財団 令和元年度研究成果発表会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 川崎 朋範, 一瀬 友希, 貫井 麻未, 島田 浩子, 佐野 弘, 松浦 一生, 長谷部 孝裕, 北條 隆, 大崎 昭彦, 高橋 孝郎, 村松 千左子, 大岩 幹直, 市川 二郎, 齋藤 正夫, 中村 靖, 杉浦 良子, 相田 久美, 児玉 ひとみ
2. 発表標題 大細胞および基底細胞様特徴を呈する"トリプルネガティブ"神経内分泌腫瘍
3. 学会等名 第28回日本乳癌学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kawasaki T, Hamada M, Shojiguchi N, Sato T, Nagata K, Arai E, Yasuda M, Fujino T, Hasebe T, Teramoto N
2. 発表標題 Neuroendocrine carcinoma of the breast showing triple negative, large and basal cell-like features
3. 学会等名 第109回日本病理学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 川崎 朋範, 鈴木 雅子, 藤沢 美穂, 山下 尚美, 小川 弘美, 大塚 麻実子, 瀬山 良美, 後藤 浩子, 安達 真希子, 相田 久美, 山崎 美保子, 柳田 充郎, 中村 靖, 杉浦 良子, 児玉 ひとみ
2. 発表標題 Solid variant of adenoid cystic carcinoma with basaloid features (SBACC) and marked myoid differentiation
3. 学会等名 第51回埼玉群馬乳腺疾患研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Chisako Muramatsu, Mikinao Oiwa, Takako Morita, Tomonori Kawasaki, Hirohi Fujita
2. 発表標題 Multimodality breast mass classification using CNN-based similarity estimation
3. 学会等名 IWAIT 2020 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 長谷部孝裕, 杉山迪子, 島田浩子, 杉谷郁子, 浅野彩, 上田重人, 佐野弘, 川崎朋範, 大崎昭彦, 佐伯俊昭
2. 発表標題 ワークショップ 『癌の悪性度を規定する因子-癌微小環境および脈管内腫瘍塞栓の役割』 脈管内腫瘍塞栓 -乳癌の浸潤・転移における役割
3. 学会等名 第27回日本乳癌学会学術総会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 島田浩子, 長谷部孝裕, 杉山迪子, 杉谷郁子, 浅野彩, 佐野弘, 近藤奈美, 上田重人, 川崎朋範, 大崎昭彦, 佐伯俊昭
2. 発表標題 ワークショップ 『癌の悪性度を規定する因子-癌微小環境および脈管内腫瘍塞栓の役割』 癌間質と腫瘍内マクロファージの密接な関係について
3. 学会等名 第27回日本乳癌学会学術総会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 杉浦良子, 児玉ひとみ, 中村靖, 柳田充郎, 藤沢美穂, 相田久美, 川崎朋範
2. 発表標題 HER2陽性乳癌の補助療法、ペルツスマブの適応 過去10年の症例から当院での適応を検討する
3. 学会等名 第27回日本乳癌学会学術総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤沢美穂, 鈴木雅子, 後藤浩子, 瀬山良美, 大塚麻実子, 小川弘美, 相田久美, 川崎朋範
2. 発表標題 多様な形態像を示し組織型推定に苦慮した乳癌の一症例
3. 学会等名 第58回日本臨床細胞学会秋期大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 政岡秀彦、稲田博輝、細沼沙紀、土居美枝子、金野美年子、金令、市村隆也、石澤圭介、川崎朋範、長谷部孝裕、山田健人、佐々木惇
2. 発表標題 悪性葉状腫瘍に発生した扁平上皮癌（いわゆる癌肉腫）の一例
3. 学会等名 第58回日本臨床細胞学会秋期大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 一瀬友希、川崎朋範、貫井麻未、浅野彩、島田浩子、佐野弘、松浦一生、高橋孝郎、長谷部孝裕、北條隆、大崎昭彦、佐伯俊昭
2. 発表標題 当院で経験したpleomorphic lobular carcinoma 7症例の臨床・病理学的分析
3. 学会等名 第28回日本乳癌学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 貫井麻未、松浦一生、川崎朋範、柳川裕希、杉山佳奈子、藤本章博、一瀬友希、島田浩子、佐野弘、黒野健司、今田浩生、田丸淳一、北條隆、長谷部孝裕、大崎昭彦、佐伯俊昭
2. 発表標題 当院における乳腺分泌癌のETV6-NTRK3融合遺伝子解析を含めた臨床・病理学的検討
3. 学会等名 第28回日本乳癌学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 一瀬友希、上田重人、川崎朋範、高橋孝郎、浅野彩、島田浩子、佐野弘、松浦一生、北條隆、大崎昭彦、長谷部孝裕、佐伯俊昭
2. 発表標題 低血糖による意識消失発作を合併した乳房葉状腫瘍の一例
3. 学会等名 第16回日本乳癌学会関東地方会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 増田怜良, 新井徳子, 長田高志, 吉川信一郎, 川崎朋範, 高尾昌樹
2. 発表標題 脳梗塞血行再建術時の病理所見で肺多型癌による閉塞と診断した66歳男性例
3. 学会等名 臨床神経学 (0009-918X)59巻4号 Page215
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石澤圭介, 鈴木智成, 川崎朋範, 安達淳一, 西川亮, 佐々木惇
2. 発表標題 多彩な組織像を示したependymoma、RELA fusion-positive(11歳、男児)の1例
3. 学会等名 Brain Tumor Pathology (日本脳腫瘍病理学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 浜田芽衣, 長塚仁, 川崎朋範, 永田耕治, 佐藤次生, 細沼佑介, 鎌田孝一, 蝦原康宏, 小柏靖直, 安田政実
2. 発表標題 舌扁平上皮癌のリンパ節転移予測因子に関する病理学的解析
3. 学会等名 第108回日本病理学会総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山崎美保子, 谷坂優樹, 良沢昭銘, 川崎朋範
2. 発表標題 膵管構造を認めた胃壁内異所性膵の一例
3. 学会等名 第33回日本腹部放射線学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石田博徳, 柳原章寿, 二反田博之, 坂口浩三, 田口 亮, 吉村竜一, 川崎朋範
2. 発表標題 5年の経過観察中に徐々に増大したMicronodular thymoma with lymphoid
3. 学会等名 第185回日本肺癌学会関東支部学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 市川二郎, 安藤隆, 川崎朋範, 斎藤正夫, 井上克枝, 波呂浩孝
2. 発表標題 血小板による骨肉腫の転移誘導
3. 学会等名 日本整形外科学会雑誌
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 辻翔平, 中山伸朗, 淵上彰, 藤井庸平, 打矢紘, 中澤学, 安藤さつき, 菅原通子, 中尾将光, 本谷大介, 今井幸紀, 富谷智明, 持田智, 水出雅文, 良沢昭銘, 渡邊幸博, 岡田克也, 岡本光順, 佐野勝廣, 川崎朋範
2. 発表標題 Groove膵炎との鑑別に苦慮した膵頭部癌の1例
3. 学会等名 日本消化器病学会 関東支部例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 浜田芽衣, 加藤智美, 扇田智彦, 目黒葉子, 永田耕治, 佐藤次生, 佐藤奈帆子, 川崎朋範, 新井栄一, 長塚仁, 安田政実
2. 発表標題 SMARCA4 deficient thoracic sarcomaの一例
3. 学会等名 第58回日本臨床細胞学会秋期大会 岡山
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加藤智美, 浜田芽衣, 扇田智彦, 目黒葉子, 鎌倉靖夫, 菅野恵士, 川崎朋範, 井上準, 中平光彦, 矢澤康男, 安田政実
2. 発表標題 耳前部に発生した胞巣状軟部肉腫(ASPS)の一例
3. 学会等名 第58回日本臨床細胞学会秋期大会 岡山
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 柳川裕希, 佐伯俊昭, 大崎昭彦, 北條隆, 松浦一生, 近藤奈美, 島田浩子, 淺野彩, 貫井麻未, 藤本章博, 杉山佳奈子, 高橋孝郎, 長谷部孝裕, 川崎朋範
2. 発表標題 急速増大を呈した被包型乳頭癌の一例
3. 学会等名 第16回日本乳癌学会関東地方会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Chisako Muramatsu, Shunichi Higuchi, Takako Morita, Mikinao Oiwa, Tomonori Kawasaki, Hiroshi Fujita
2. 発表標題 Image Retrieval of Breast Masses on Ultrasound Images
3. 学会等名 SPIE Medical Imaging 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 白石和寛, 杉山圭司, 佐藤真利子, 能澤一樹, 船橋依理子, 川崎朋範, 小暮啓人, 北川智余恵, 三澤逸人, 坂英雄
2. 発表標題 集学的治療で救命しえたDIC合併鼻腔原発胞巣型横紋筋肉腫の1例 (若手優秀演題賞)
3. 学会等名 日本内科学会 第237回東海地方会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川崎 朋範, 長谷部 孝裕, 久保田 敏信, 市原 周, 大岩 幹直, 遠藤 登喜子, 林 孝子, 森田 孝子, 佐藤 康幸, 加藤 良平
2. 発表標題 Oral presentation (English): Neuroendocrine cells relevant to endocrine mammary and cutaneous carcinomas: nature and significance
3. 学会等名 第107回日本病理学会総会 (日本病理学会会誌)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 川崎朋範, 長谷部孝裕, 久保田敏信, 久野欽子, 矢田啓二, 市原周, 西村理恵子, 林孝子, 森田孝子, 佐藤康幸, 大岩幹直, 遠藤登喜子, 星田義彦, 寺本典弘, 加藤良平, 堀部敬三, 直江知樹
2. 発表標題 Neuroendocrine cells relevant to endocrine mammary and cutaneous carcinomas: nature and significance
3. 学会等名 第72回国立病院総合医学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 川崎 朋範, 長谷部 孝裕, 市原 周, 佐藤 康幸, 森田 孝子, 林 孝子, 加藤 彩, 大岩 幹直
2. 発表標題 扁平上皮分化を伴う乳腺の小細胞癌(Small-cell carcinoma of the breast with squamous differentiation)
3. 学会等名 第26回日本乳癌学会学術総会 (日本乳癌学会総会プログラム抄録集)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 川崎 朋範, 久保田 敏信, 市原 周, 西川 恵理, 大岩 幹直, 長谷部 孝裕
2. 発表標題 Precursor neuroendocrine cells associated with endocrine mucin-producing sweat gland carcinoma
3. 学会等名 第107回日本病理学会総会 (日本病理学会会誌)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大岩幹直, 大岩幹直, 遠藤登喜子, 遠藤登喜子, 森田孝子, 須田波子, 佐橋恩, 伊藤馨那, 伊藤果穂, 市原周, 川崎朋範
2. 発表標題 パネルディスカッション Dense breastに対する補助的乳房超音波検査 補助的乳房超音波検査として何が求められているか 特異度上昇の観点から
3. 学会等名 日本超音波医学会 第91回学術集会(超音波医学)(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 多田隆士, 松谷英樹, 石田茂登男, 上杉憲幸, 川崎朋範
2. 発表標題 乳腺石灰化病変に対するステレオ,超音波ガイド下マンモトーム生検施行例の検討
3. 学会等名 第26回日本乳癌学会学術総会(日本乳癌学会学術総会プログラム・抄録集)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森田孝子, 須田波子, 大岩幹直, 川崎朋範, 市原周, 遠藤登喜子
2. 発表標題 サブタイプ別早期乳癌の画像所見の特徴
3. 学会等名 第27回日本乳癌画像研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐藤康幸, 林孝子, 加藤彩, 森田孝子, 大岩幹直, 遠藤登喜子, 黒石哲夫, 嘉田晃子, 伊藤典子, 川崎朋範, 森谷鈴子, 市原周
2. 発表標題 放射線非照射乳房温存手術による非浸潤性乳管癌155例のコホート研究
3. 学会等名 第26回日本乳癌学会学術総会(日本乳癌学会学術総会プログラム・抄録集)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森田孝子, 須田波子, 大岩幹直, 佐藤康幸, 林孝子, 加藤彩, 市原周, 川崎朋範, 遠藤登喜子, 遠藤登喜子
2. 発表標題 術前診断が困難であったAdenomyoepithelioma with invasive carcinomaの1例
3. 学会等名 第26回日本乳癌学会学術総会 (日本乳癌学会学術総会プログラム・抄録集)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大岩幹直, 大岩幹直, 遠藤登喜子, 遠藤登喜子, 佐藤康幸, 森田孝子, 須田波子, 林孝子, 加藤彩, 宇佐見寿志, 安藤嘉朗, 市原周, 川崎朋範
2. 発表標題 40歳台のMC検診ではnon dense breastでも乳癌発見率が低い?当院手術例における40歳台乳癌の検討
3. 学会等名 第26回日本乳癌学会学術総会 (日本乳癌学会学術総会プログラム・抄録集)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森田孝子, 須田波子, 大岩幹直, 川崎朋範, 市原周, 遠藤登喜子
2. 発表標題 シンポジウム ここまで見える"乳房超音波" 最新技術を駆使した乳腺超音波診断
3. 学会等名 日本超音波医学会 第91回学術集会 (超音波医学) (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐橋恩, 伊藤馨那, 伊藤果穂, 森田孝子, 須田波子, 遠藤登喜子, 川崎朋範, 市原周
2. 発表標題 良悪性合併乳管内増殖性病変のエラストグラフィの検討
3. 学会等名 日本超音波医学会 第91回学術集会 (超音波医学)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 白石和寛, 杉山圭司, 佐藤真利子, 能澤一樹, 船橋依理子, 川崎朋範, 小暮啓人, 北川智余恵, 三澤逸人, 坂英雄
2. 発表標題 集学的治療で救命しえたDIC合併鼻腔原発巣型横紋筋肉腫の1例(若手優秀演題賞)
3. 学会等名 日本内科学会 第237回東海地方会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 星田義彦, 大島至郎, 佐伯行彦, 川崎朋範, 金子敦史, 片山雅夫, 倉岡和矢, 秋谷久美子, 斎藤生朗, 村山寿彦, 田口健一, 市原周, 當間重人
2. 発表標題 カルシニューリン阻害剤投与リウマチ患者に発生したリンパ増殖性疾患の臨床病理学検討
3. 学会等名 第72回国立病院総合医学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 浜田芽衣, 川崎朋範, 長谷部孝裕, 扇田智彦, 加藤智美, 矢野光剛, 佐藤次生, 永田耕治, 藤野節, 新井栄一, 安田政実, 加藤良平, 小柏靖直, 中平光彦, 菅澤正
2. 発表標題 細胞診で病変の推定が困難であった甲状腺肉腫(悪性末梢神経鞘腫瘍)の1例
3. 学会等名 第57回日本臨床細胞学会秋期大会 [日本臨床細胞学会雑誌(Web)]
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐藤 真利子, 石井 友里加, 白石 和寛, 能澤 一樹, 杉山 圭司, 船橋 依里子, 高間 夏子, 小暮 啓斗, 川崎 朋範, 北川 智余恵, 西村 理恵子, 加藤 恵利子, 市原 周, 坂 英雄
2. 発表標題 HER2陽性縦隔原発アポクリン癌に対して抗HER2療法が奏功した1例
3. 学会等名 第56回日本癌治療学会(日本癌治療学会学術集会抄録集)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 土居美枝子, 瀬山幸子, 政岡秀彦, 稲田博輝, 細沼沙紀, 金野美年子, 浜田芽衣, 金玲, 市村隆也, 石澤圭介, 川崎朋範, 茅野秀一, 山田健人, 佐々木惇
2. 発表標題 頸部リンパ節穿刺細胞診で診断に苦慮した上咽頭原発リンパ上皮癌の1例
3. 学会等名 第32回関東臨床細胞学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉川 信一郎, 笠倉 至言, 木幡 一磨, 塚越 瑛介, 米沢 あづさ, 水橋 里弥, 神山 信也, 新井 徳子, 高尾 昌樹, 浜田 芽衣, 川崎 朋範, 毛利 篤人
2. 発表標題 血管内再開通療法が奏功した中大脳動脈腫瘍塞栓症の一例
3. 学会等名 第34回NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術総会(脳血管内治療)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊藤梢絵, 矢野光剛, 浜田芽衣, 福田桃子, 加藤智美, 扇田智彦, 菅野恵土, 細沼佑介, 三輪真唯子, 小笠原仁子, 佐藤次生, 永田耕治, 川崎朋範, 藤野節, 新井栄一, 長谷部孝裕, 安田政実
2. 発表標題 漿液性子宮内膜上皮内癌の一例
3. 学会等名 第32回関東臨床細胞学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 星田 義彦, 大島 至郎, 佐伯 行彦, 川崎 朋範, 市原 周, 金子 敦史, 片山 雅夫, 倉岡 和夫, 木田 迪子, 斎藤 生朗, 當間 重人, 黒澤 光俊, 菅原 浩之, 平松 靖史, 矢部 博樹
2. 発表標題 カルシニューリン阻害剤投与リウマチ患者に発生したリンパ増殖性疾患の臨床病理学検討(Clinicopathological analysis of LPD that developed in RA patients receiving calcineurin inhibitors)
3. 学会等名 第80回日本血液学会学術集会(臨床血液)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤田美穂, 服部浩佳, 花田優, 秋田直洋, 関水匡大, 市川瑞穂, 二村昌樹, 前田尚子, 後藤雅彦, 関幸雄, 川崎朋範, 堀部敬三
2. 発表標題 胸腺腫との鑑別が困難であった縦隔原発未分化大細胞リンパ腫の1例
3. 学会等名 第121回日本小児科学会学術集会 (日本小児科学会雑誌)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 久野欽子, 川崎朋範, 市原周, 矢田啓二, 山下美奈, 河野知代, 須崎法幸, 佐々木惇
2. 発表標題 Glioblastoma with a primitive neuronal componentの細胞病理学的特徴
3. 学会等名 第59回日本臨床細胞学会総会春期大会 [日本臨床細胞学会雑誌(Web)]
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 星田義彦, 大島至郎, 佐伯行彦, 川崎朋範, 市原周, 金子敦史, 片山雅夫, 倉岡和矢, 齋藤生朗, 當間重人
2. 発表標題 カルシニューリン阻害剤投与リウマチ患者に発生したリンパ増殖性疾患の臨床病理学検討
3. 学会等名 第107回日本病理学会総会 (日本病理学会会誌)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 川崎朋範
2. 発表標題 乳がんの病理と画像
3. 学会等名 第39回マンモグラフィ読影講習会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 川崎朋範
2. 発表標題 乳がんの病理と画像
3. 学会等名 第13回超音波検査従事者のためのマンモグラフィ読影講習会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 川崎朋範
2. 発表標題 乳がんの病理と画像
3. 学会等名 第40回マンモグラフィ読影講習会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 川崎朋範
2. 発表標題 シンポジウム「Neuroendocrine neoplasms (NEN) の臓器横断的病理診断の確立に向けて」
3. 学会等名 第7回神経内分泌腫瘍研究会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川崎朋範，加藤良平，長谷部孝裕，大崎昭彦，佐伯俊昭
2. 発表標題 シンポジウム『乳腺腫瘍の正確な病理診断を目指して』 神経内分泌形質を有する乳癌
3. 学会等名 第27回日本乳癌学会学術総会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 長谷部孝裕, 杉山迪子, 島田浩子, 杉谷郁子, 浅野彩, 上田重人, 佐野弘, 川崎朋範, 大崎昭彦, 佐伯俊昭
2. 発表標題 シンポジウム『乳腺腫瘍の正確な病理診断を目指して』 脈管内腫瘍塞栓 -乳癌の浸潤・転移における役割
3. 学会等名 第27回日本乳癌学会学術総会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川崎朋範
2. 発表標題 乳癌特殊型の臨床・病理学的意義の解明および新分類の提唱 (国立病院機構共同臨床研究 H29-NH0 (癌般) -01 川崎班)
3. 学会等名 臨床研究推進委員会作業部会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川崎朋範, 佐藤次生, 新井栄一, 伊藤梢絵, 福田桃子, 浜田芽衣, 矢野光剛, 永田耕治, 安田政実, 田丸淳一
2. 発表標題 男性乳腺原発の濾胞性リンパ腫
3. 学会等名 第108回日本病理学会総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川崎朋範, 佐野弘, 上田重人, 杉谷郁子, 島田浩子, 廣川詠子, 近藤奈美, 長谷部孝裕, 大崎昭彦, 高橋孝郎, 鎌田孝一, 伊藤梢絵, 佐藤次生, 新井栄一, 田丸淳一, 塚崎邦弘, 高橋直樹, 市川二郎, 齋藤正夫, 佐伯俊昭
2. 発表標題 Follicular lymphoma of the male breast
3. 学会等名 第27回日本乳癌学会学術総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川崎朋範, 寺本典弘
2. 発表標題 Mixed oncocytic and apocrine carcinoma of the breast
3. 学会等名 第50回埼玉群馬乳腺疾患研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 浜田芽衣, 長塚仁, 川崎朋範, 永田耕治, 佐藤次生, 細沼佑介, 鎌田孝一, 蝦原康宏, 小柏靖直, 安田政実
2. 発表標題 舌扁平上皮癌のリンパ節転移予測因子に関する病理学的解析
3. 学会等名 第108回日本病理学会総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川崎朋範
2. 発表標題 乳腺・甲状腺腫瘍の細胞診
3. 学会等名 腫瘍セミナー in Saitama (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kawasaki T, Ichihara S, Oiwa M, Morita T, Hayashi T, Sato Y, Endo T, Okuda S
2. 発表標題 Cytological features of lymphoepithelioma-like carcinoma of the breast
3. 学会等名 29th European Congress of Pathology (Virchows Arch) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1 . 発表者名 Kawasaki T, Ichihara S, Kato S, Nakamura S
2 . 発表標題 Neural cell adhesion molecule (CD56)-positive B-cell lymphoma of the urinary bladder
3 . 学会等名 29th European Congress of Pathology (Virchows Arch) (国際学会)
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Ichihara S, Moritani S, Kawasaki T, Oiwa M, Morita T, Hayashi T, Kato A, Itoh N, Kada A, Endo T, Sato Y
2 . 発表標題 A New Method of Tangential Margin Assessment to Identify Ductal Carcinoma In Situ of the Breast that can be Controlled by Conserving Surgery Alone - A retrospective cohort study in Japan
3 . 学会等名 USCAP (United States and Canadian Academy of Pathology) 107th Annual Meeting (Mod Pathol/Lab Invest) (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Ichihara S, Sunaguchi N, Ando M, Yuasa T, Shimao D, Kawasaki T, Mori K, Gupta R
2 . 発表標題 Impact of crystal analyser-based phase contrast X-ray computed tomography on histopathology
3 . 学会等名 29th European Congress of Pathology (Virchows Arch) (国際学会)
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Ichihara S, Masuzawa Y, Kawasaki T, Nakai T, Moritani S, Toma T
2 . 発表標題 Spindle cell adenolipoma of the breast: hitherto undescribed variant of mammary hamartoma
3 . 学会等名 29th European Congress of Pathology (Virchows Arch) (国際学会)
4 . 発表年 2017年

1. 発表者名 Ichihara S, Nishimura R, Yamashiro K, Suzuki H, Murata Y, Meguro S, Iwashita T, Iwashina M, Kodama Y, Mori K, Taguchi K, Teramoto N, Yamashita N, Ito M, Moritani S, Yamaguchi R, Kawasaki T, Ito N, Kada A, Okuda S, Oiwa M, Hayashi T, Kato A, Morita T, Sato Y
2. 発表標題 Under-diagnosis and over-diagnosis in breast core needle biopsy: An estimation using inter-institutional whole slide imaging-based tele-consultation network
3. 学会等名 29th European Congress of Pathology (Virchows Arch) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 川崎朋範
2. 発表標題 乳がんの病理と画像
3. 学会等名 第39回マンモグラフィ読影講習会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 川崎朋範
2. 発表標題 乳腺疾患の画像と病理
3. 学会等名 Breast Imaging Technical Seminar (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 川崎朋範
2. 発表標題 乳腺腫瘍の新規診断治療法に関する研究
3. 学会等名 第45回乳腺腫瘍セミナー (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大岩幹直, 遠藤登喜子, 佐藤康幸, 森田孝子, 須田波子, 林孝子, 加藤彩, 宇佐見寿志, 安藤嘉朗, 市原周, 川崎朋範
2. 発表標題 古くて新しいマンモグラフィ所見 構築の乱れ 癌の診断までに時間を要した構築の乱れ症例の特徴は?
3. 学会等名 第25回日本乳癌学会学術総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 佐藤康幸, 林孝子, 加藤彩, 森田孝子, 須田波子, 能澤一樹, 加藤恭子, 大岩幹直, 市原周, 川崎朋範
2. 発表標題 乳癌術前術後化学療法におけるサポータティブケア RDI100%を目指して
3. 学会等名 第25回日本乳癌学会学術総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 川崎朋範
2. 発表標題 乳がんの病理と画像
3. 学会等名 第12回 超音波検査従事者のためのマンモグラフィ読影講習会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 川崎朋範
2. 発表標題 乳がんの病理と画像
3. 学会等名 第38回マンモグラフィ読影講習会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 川崎朋範
2. 発表標題 乳腺細胞診
3. 学会等名 平成29年 東海連合会細胞診基礎講習会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 榎本篤，市原周、川崎朋範（オーガナイザー 兼 座長），高橋雅英
2. 発表標題 モーニングセッション3（MSS-3）「乳癌におけるCAF」MSS-3-2 乳癌・癌関連線維芽細胞の多様性とその機能
3. 学会等名 第106回日本病理学会総会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 川崎朋範
2. 発表標題 乳がんの病理と画像
3. 学会等名 第37回マンモグラフィ読影講習会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 森田孝子，林孝子，加藤彩，佐藤康幸，須田波子，市原周，川崎朋範，佐橋恩，伊藤馨那，遠藤登喜子
2. 発表標題 非放射線照射治療をおこなった非浸潤がん症例の検討
3. 学会等名 乳腺甲状腺超音波医学
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森田孝子, 須田波子, 大岩幹直, 川崎朋範, 市原周, 遠藤登喜子
2. 発表標題 サブタイプ別早期乳癌の画像所見の特徴
3. 学会等名 第27回日本乳癌画像研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 河合峻雅, 杉山圭司, 白石和寛, 能澤一樹, 坂英雄, 中畑征史, 小暮啓人, 川崎朋範, 北川智余恵, 森田孝子
2. 発表標題 非小細胞肺癌と鑑別を要した男性乳癌の1例
3. 学会等名 第234回日本内科学会東海地方会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 川崎朋範, 市原周, 大岩幹直, 遠藤登喜子, 佐藤康幸, 森田孝子, 林孝子, 加藤彩, 星田義彦, 久野欽子, 矢田啓二, 奥田聡
2. 発表標題 Small-cell carcinoma of the breast with squamous differentiation
3. 学会等名 第71回国立病院総合医学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 星田義彦, 大島至郎, 佐伯行彦, 川崎朋範, 市原周, 金子敦史, 片山雅夫
2. 発表標題 カルシニューリン阻害剤投与リウマチ患者に発生したリンパ増殖性疾患の4例
3. 学会等名 第71回国立病院総合医学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大岩幹直, 遠藤登喜子, 佐藤康幸, 森田孝子, 林孝子, 須田波子, 加藤彩, 宇佐見寿志, 安藤嘉朗, 市原周, 川崎朋範
2. 発表標題 40歳代のマンモグラフィおよび超音波検診発見乳癌の特徴の検討 50歳以上・有症状例と対比して
3. 学会等名 第27回日本乳癌検診学会学術総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 多田隆士, 松谷英樹, 志賀光二郎, 石田茂登男, 上杉憲幸, 川崎朋範
2. 発表標題 石灰化病変に対する超音波ガイド下マンモトーム生検施行例の検討
3. 学会等名 第79回日本臨床外科学会総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 長谷川裕高, 片岡政人, 杉谷麻未, 林泰三, 森憲彦, 田嶋久子, 加藤公一, 中山裕史, 竹田伸, 川崎朋範
2. 発表標題 術後10年目に盲腸転移再発をきたした子宮体癌の一例
3. 学会等名 第79回日本臨床外科学会総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 岡本喜一郎, 松尾康治, 岩下寿秀, 市原周, 川崎朋範, 富家由美, 安藤雅規, 二宮豪, 伊藤武, 山下克也, 佐藤健, 市原透
2. 発表標題 平滑筋肉腫との鑑別を要した乳腺紡錘細胞癌の1例
3. 学会等名 第79回日本臨床外科学会総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 森美喜子, 杉山圭司, 白石和寛, 能澤一樹, 船橋依理子, 長谷川裕高, 小暮啓人, 中山裕史, 北川智余恵, 川崎朋範, 近藤建, 坂英雄
2. 発表標題 異所性胃粘膜炎由来のHER2陽性腺がんに対して抗HER2療法を施行した1例
3. 学会等名 第55回日本癌治療学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 鈴木康裕, 長谷川祐太, 徳永隆之, 國富あかね, 宮田泰彦, 飯田浩充, 川崎朋範, 永井宏和
2. 発表標題 クラドリピン治療が有効であった難治性成人ランゲルハンス細胞組織球症の一例
3. 学会等名 第57回日本リンパ網内系学会総会・第27回日本樹状細胞研究会・第20回日本血液病理研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 川崎朋範, 市原周, 大岩幹直, 森田孝子, 林孝子, 加藤彩, 須田波子, 遠藤登紀子, 佐藤康幸, 松谷英樹, 石田茂登男, 多田隆士
2. 発表標題 Well-differentiated neuroendocrine tumor of the breast showing carcinomatous lymphangiosis
3. 学会等名 第25回日本乳癌学会学術総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 多田隆士, 松谷英樹, 志賀光二郎, 石田茂登男, 齋藤純一, 上杉憲幸, 川崎朋範
2. 発表標題 男性乳癌15例の臨床病理学的検討
3. 学会等名 第25回日本乳癌学会学術総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 林孝子, 佐藤康幸, 加藤彩, 森田孝子, 大岩幹直, 須田波子, 川崎朋範, 市原周
2. 発表標題 当院の乳腺Invasive micropapillary carcinomaの臨床病理学的検討
3. 学会等名 第25回日本乳癌学会学術総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石田和茂, 小松英明, 松井雄介, 川岸涼子, 川崎朋範, 刑部光正, 上杉憲幸, 石田和之, 菅井有, 佐々木章
2. 発表標題 当科におけるHER2検査(IHCおよびFISH)の検討
3. 学会等名 第25回日本乳癌学会学術総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 重松文恵, 鳥居厚志, 山田有里紗, 石田あかね, 丹羽英之, 伊勢裕子, 中畑征史, 岡さおり, 小暮啓人, 北川智余恵, 沖昌英, 坂英雄, 川崎朋範
2. 発表標題 気管原発MALTリンパ腫の1例
3. 学会等名 第40回日本呼吸器内視鏡学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 伊藤馨那, 森田孝子, 遠藤登喜子, 川崎朋範
2. 発表標題 トリプルネガティブ(TN)乳癌のエラストグラフィ所見と病理像の検討
3. 学会等名 院内研究発表会2017
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 米倉由香, 長谷川正規, 山下美奈, 小塚佳代子, 矢田啓二, 岩越朱里, 尹漢勝, 市原周, 川崎朋範, 駒野淳
2. 発表標題 多型腺腫と鑑別を要した唾液腺・腺筋上皮腫の一例
3. 学会等名 第58回日本臨床細胞学会総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 川崎朋範, 市原周, 中井登紀子, 奥田聡, 佐藤康幸, 森田孝子, 林孝子, 加藤彩, 大岩幹直, 遠藤登紀子
2. 発表標題 巨大な腫瘍塞栓を伴った乳腺神経内分泌腫瘍 Well-differentiated neuroendocrine tumor of the breast showing peculiar endovascular spread
3. 学会等名 第106回日本病理学会総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 川崎朋範, 中井登紀子, 市原周, 長谷川正規, 岩越朱里, 榎本篤, 佐藤朋子, 浅井昌美, 西川恵理, 大林千穂
2. 発表標題 癌性リンパ管症を呈した乳腺神経内分泌腫瘍 Neuroendocrine tumor of the breast showing carcinomatous lymphangiosis
3. 学会等名 第106回日本病理学会総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 西川恵理, 川崎朋範, 久保田敏信, 市原周, 中井登紀子, 矢田啓二, 小塚佳代子, 米倉由香, 山下美奈, 猪爪隆史
2. 発表標題 眼瞼に発生したendocrine mucin-producing sweat gland carcinoma (EMPSGC) の1例
3. 学会等名 第106回日本病理学会総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中井登紀子, 市原周, 川崎朋範, 佐々木翔, 大谷知之, 内山智子, 伊丹弘恵, 高野将人, 畠山 金太, 大林千穂
2. 発表標題 Solid variant of adenoid cystic carcinoma 9例の免疫組織化学的・分子病理学的検討
3. 学会等名 第106回日本病理学会総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中井登紀子, 市原周, 川崎朋範, 佐々木翔, 大谷知之, 内山智子, 伊丹弘恵, 高野将人, 畠山 金太, 大林千穂
2. 発表標題 乳腺部分切除手術断端検索におけるポリゴン方式と「取り扱い」規約方式の比較
3. 学会等名 第106回日本病理学会総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 川崎朋範
2. 発表標題 乳がんの病理と画像
3. 学会等名 第13回 超音波検査従事者のためのマンモグラフィ読影講習会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 川崎朋範
2. 発表標題 乳がんの病理と画像
3. 学会等名 第40回マンモグラフィ読影講習会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 川崎朋範, 長谷部孝裕, 久保田敏信, 市原周, 大岩幹直, 遠藤登喜子, 林孝子, 森田孝子, 佐藤康幸, 加藤良平
2. 発表標題 Neuroendocrine cells relevant to endocrine mammary and cutaneous carcinomas: nature and significance
3. 学会等名 第107回日本病理学会総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 川崎朋範, 久保田敏信, 市原周, 西川恵理, 大岩幹直, 長谷部孝裕
2. 発表標題 Precursor neuroendocrine cells associated with endocrine mucin-producing sweat gland carcinoma
3. 学会等名 第107回日本病理学会総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 川崎朋範, 長谷部孝裕, 市原周, 佐藤康幸, 森田孝子, 林孝子, 加藤彩, 大岩幹直
2. 発表標題 Small-cell carcinoma of the breast with squamous differentiation
3. 学会等名 第26回日本乳癌学会学術総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 久野欽子, 川崎朋範, 市原周, 矢田啓二, 山下美奈, 河野知代, 須崎法幸, 佐々木敦
2. 発表標題 Glioblastoma with a primitive neuronal componentの細胞病理学的特徴
3. 学会等名 第59回日本臨床細胞学会総会春期大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nakai T, Ichihara S, Sanada M, Kawasaki T, Ohta Y, Wakasa T, Yukawa M, Fujii T, Ohbayashi C
2. 発表標題 Multiple subcutaneous papillomas of the chest caused by needle tract seeding from the breast
3. 学会等名 28th European Congress of Pathology (ECP) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 榎本篤, 市原周、川崎朋範 (兼 座長), 高橋雅英
2. 発表標題 モーニングセッション3 (MSS-3) 「乳癌におけるCAF」MSS-3-2 乳癌・癌関連線維芽細胞の多様性とその機能.
3. 学会等名 第106回日本病理学会総会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 川崎朋範
2. 発表標題 神経内分泌乳癌の診断・治療に関する up-to-date
3. 学会等名 南東北晩期高齢者乳癌治療研究会 (招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 川崎朋範, 菅井有, 市原周
2. 発表標題 コンパニオンミーティング「乳腺腫瘍分類の新しい展開」 Mammary carcinomas with neuroendocrine features 神経内分泌形質を有する乳癌
3. 学会等名 第105回日本病理学会総会 (招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 川崎朋範
2. 発表標題 乳腺細胞診
3. 学会等名 日本臨床細胞学会 平成29年 東海連合会細胞診基礎講習会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 川崎朋範
2. 発表標題 乳がんの病理と画像
3. 学会等名 第37回マンモグラフィ読影講習会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 川崎朋範
2. 発表標題 乳がんの病理と画像
3. 学会等名 平成29年度第1回東京都マンモグラフィ読影講習会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 川崎朋範
2. 発表標題 乳がんの病理と画像
3. 学会等名 第38回マンモグラフィ読影講習会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 川崎朋範
2. 発表標題 セッション 症例検討 病理解説
3. 学会等名 第23回いわて乳腺疾患フォーラム（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 川崎朋範, 市原周, 大岩幹直, 森田孝子, 林孝子, 加藤彩, 須田波子, 遠藤登紀子, 佐藤康幸, 松谷英樹, 石田茂登男, 多田隆士
2. 発表標題 Well-differentiated neuroendocrine tumor of the breast showing carcinomatous lymphangiosis
3. 学会等名 第25回日本乳癌学会学術総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 川崎朋範, 市原周, 中井登紀子, 奥田聡, 佐藤康幸, 森田孝子, 林孝子, 加藤彩, 大岩幹直, 遠藤登紀子
2. 発表標題 巨大な腫瘍塞栓を伴った乳腺神経内分泌腫瘍 Well-differentiated neuroendocrine tumor of the breast showing peculiar endovascular spread
3. 学会等名 第106回日本病理学会総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 川崎朋範, 中井登紀子, 市原周, 長谷川正規, 岩越朱里, 榎本篤, 佐藤朋子, 浅井昌美, 西川恵理, 大林千穂
2. 発表標題 癌性リンパ管症を呈した乳腺神経内分泌腫瘍 Neuroendocrine tumor of the breast showing carcinomatous lymphangiosis
3. 学会等名 第106回日本病理学会総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 西川恵理, 川崎朋範, 久保田敏信, 市原周, 中井登紀子, 矢田啓二, 小塚佳代子, 米倉由香, 山下美奈, 猪爪隆史
2. 発表標題 眼瞼に発生したendocrine mucin-producing sweat gland carcinoma (EMPSGC) の1例
3. 学会等名 第106回日本病理学会総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中井登紀子, 市原周, 川崎朋範, 佐々木翔, 大谷知之, 内山智子, 伊丹弘恵, 高野将人, 畠山 金太, 大林千穂
2. 発表標題 Solid variant of adenoid cystic carcinoma 9例の免疫組織化学的・分子病理学的検討
3. 学会等名 第106回日本病理学会総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中井登紀子, 市原周, 川崎朋範, 佐々木翔, 大谷知之, 内山智子, 伊丹弘恵, 高野将人, 畠山 金太, 大林千穂
2. 発表標題 乳腺部分切除手術断端検索におけるポリゴン方式と「取り扱い」規約方式の比較
3. 学会等名 第106回日本病理学会総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 川崎朋範, 市原周, 中井登紀子, 榎本篤, 佐藤彩佳, 安保淳一, 石田茂登男, 多田隆士, 松谷英樹, 森谷鈴子, 菅井有
2. 発表標題 Solid-basaloid featuresを有する乳腺腺様嚢胞癌の細胞病理学的分析
3. 学会等名 第55回日本臨床細胞学会秋期大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 菊池いな子, 石田和之, 佐藤彩佳, 上田奈央子, 肥田野靖史, 高橋静子, 山田範幸, 安保淳一, 杉本亮, 無江良晴, 上杉憲幸, 川崎朋範, 佐藤孝, 菅井有
2. 発表標題 脈絡叢乳頭腫の一例
3. 学会等名 第55回日本臨床細胞学会秋期大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 松谷英樹, 多田隆士, 西成尚人, 石田茂登男, 川崎朋範
2. 発表標題 乳腺原発腺様嚢胞癌の2例
3. 学会等名 第78回日本臨床外科学会総会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 石田茂登男, 多田隆士, 長澤茂, 松谷英樹, 西成尚人, 川崎朋範
2. 発表標題 乳癌術前CNBの播種による局所再発例の一例と播種像
3. 学会等名 第78回日本臨床外科学会総会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 多田隆士, 松谷英樹, 志賀光二郎, 石田茂登男, 川崎朋範, 菅井有
2. 発表標題 骨・軟骨化生を伴う乳癌の1例
3. 学会等名 第78回日本臨床外科学会総会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 小松英明, 稲葉亨, 石田和茂, 川岸涼子, 松井雄介, 川崎朋範, 菅井有, 佐々木章
2. 発表標題 当科における術前化学療法後のセンチネルリンパ節生検の検討
3. 学会等名 第78回日本臨床外科学会総会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 小松英明, 石田和茂, 川岸涼子, 松井雄介, 稲葉亨, 川崎朋範, 菅井有, 佐々木章
2. 発表標題 乳腺 HER2 陽性再発乳がんに対する治療戦略 当院における T-DM1 の使用症例の検討
3. 学会等名 第54回日本癌治療学会学術集会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 川崎朋範, 須田健, 伊藤嘉智, 苫米地牧子, 松井雄介, 石田和茂, 小松英明, 柏葉匡寛, 菅井有, 角田博子, 山内英子, 市原周
2. 発表標題 Microinvasive neuroendocrine carcinoma arising from central papilloma of the breast
3. 学会等名 第24回日本乳癌学会学術総会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 松谷英樹, 多田隆士, 西成尚人, 石田茂登男, 川崎朋範
2. 発表標題 乳腺腺様嚢胞癌の1例
3. 学会等名 第24回日本乳癌学会学術総会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 石田和茂, 柏葉匡寛, 大槻花恵, 松井雄介, 川岸涼子, 小松英明, 稲葉亨, 川崎朋範, 菅井有, 佐々木章
2. 発表標題 当科における乳癌術前化学療法後再発症例の検討
3. 学会等名 第24回日本乳癌学会学術総会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 柏葉匡寛, 小松英明, 石田和茂, 川岸涼子, 松井雄介, 川崎朋範, 菅井有, 佐々木章
2. 発表標題 Platelet-to-Lymphocyte Ratioと術前化学療法の治療効果から考えるTriple negative乳癌の治療戦略
3. 学会等名 第24回日本乳癌学会学術総会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 松井雄介, 柏葉匡寛, 川岸涼子, 石田和茂, 小松英明, 上杉憲幸, 石田和之, 川崎朋範, 菅井有, 佐々木章
2. 発表標題 当院におけるTAC療法の忍容性に関する検討
3. 学会等名 第24回日本乳癌学会学術総会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 無江良晴, 川崎朋範, 山田範幸, 鈴木正通, 杉本亮, 上杉憲幸, 石田和之, 松本主之, 菅井有
2. 発表標題 消化管原発神経内分泌腫瘍 - 新WHO分類に基づく臨床病理学的比較研究
3. 学会等名 第105回日本病理学会総会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 鈴木正通, 川崎朋範, 石田茂登男, 佐藤彩佳, 杉本亮, 無江良晴, 上杉憲幸, 石田和之, 市原周, 菅井有
2. 発表標題 Well-differentiated neuroendocrine tumor of the breast with recurrence due to needle tract seeding
3. 学会等名 第105回日本病理学会総会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 鈴木正通, 川崎朋範, 長尾俊孝, 杉本亮, 無江良晴, 上杉憲幸, 石田和之, 菅井有
2. 発表標題 腫瘍随伴リンパ組織増生 (TALP) を伴う耳下腺の高分化型腺房細胞癌
3. 学会等名 第105回日本病理学会総会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 永塚真, 高橋弥生, 山田範幸, 土田宏大, 杉本亮, 無江良晴, 上杉憲幸, 石田和之, 川崎朋範, 菅井有
2. 発表標題 発生部位に基づいたsessile serrated adenoma/polypの臨床病理学的及び分子病理学的検討
3. 学会等名 第105回日本病理学会総会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 永塚真, 高橋弥生, 杉本亮, 上杉憲幸, 石田和之, 川崎朋範, 菅井有
2. 発表標題 胃血管内乳頭状内皮過形成 (Masson腫瘍) の一例
3. 学会等名 第105回日本病理学会総会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 上杉憲幸, 永塚真, 荒川典之, 山田範幸, 杉本亮, 石田和之, 川崎朋範, 菅井有
2. 発表標題 十二指腸腺腫における臨床病理学のおよび分子病理学的検討
3. 学会等名 第105回日本病理学会総会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 深川智之, 永塚真, 菅安寿子, 山田範幸, 杉本亮, 上杉憲幸, 石田和之, 川崎朋範, 菅井有
2. 発表標題 腺管分離法を用いたSNP arrayによる卵巣漿液性腺癌における染色体異常領域の解析
3. 学会等名 第105回日本病理学会総会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 高橋弥生, 永塚真, 荒川典之, 鈴木正通, 杉本亮, 無江良晴, 上杉憲幸, 石田和之, 川崎朋範, 菅井有
2. 発表標題 発生部位別に基づいた大腸 MSS (Microsatellite stable) 型癌の臨床病理学的及び分子病理学的特徴の解析
3. 学会等名 第105回日本病理学会総会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 荒川典之, 永塚真, 高橋弥生, 杉本亮, 無江良晴, 上杉憲幸, 石田和之, 川崎朋範, 菅井有
2. 発表標題 SNP arrayを用いた分化型胃癌に対するCNVの網羅解析
3. 学会等名 第105回日本病理学会総会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 土田宏大, 石田和之, 山田範幸, 上杉憲幸, 川崎朋範, 菅井有
2. 発表標題 ヒトパピローマウイルス (HPV) 陽性中咽頭癌の臨床病理学的検討
3. 学会等名 第105回日本病理学会総会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 小泉薫, 永塚真, 石田和之, 山田範幸, 杉本亮, 無江良晴, 上杉憲幸, 川崎朋範, 菅井有
2. 発表標題 大腸鏡歯状腺腫における臨床病理、分子病理学的検討
3. 学会等名 第105回日本病理学会総会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 熊谷優里, 高橋弥生, 石田和之, 永塚真, 鈴木正通, 杉本亮, 無江良晴, 上杉憲幸, 川崎朋範, 菅井有
2. 発表標題 大腸癌原発巣とリンパ節転移巣における癌間質の免疫組織学的検討
3. 学会等名 第105回日本病理学会総会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 杉本亮, 上杉憲幸, 荒川典之, 永塚真, 高橋弥生, 無江良晴, 石田和之, 川崎朋範, 菅井有
2. 発表標題 分離腺管を用いた腸上皮化生、非腸上皮化生及び胃癌の分子病理学的解析
3. 学会等名 第105回日本病理学会総会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 川崎朋範、角田博子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 学研メディカル秀潤社	5. 総ページ数 200
3. 書名 画像診断別冊 KEY BOOK シリーズ「乳腺領域の画像診断」	

1. 著者名 川崎朋範	4. 発行年 2020年
2. 出版社 文光堂	5. 総ページ数 200
3. 書名 『病理と臨床』39巻臨時増刊号「治療方針を変える病理所見 診療ガイドラインと治療戦略」	

1. 著者名 川崎朋範	4. 発行年 2020年
2. 出版社 医歯薬出版株式会社	5. 総ページ数 200
3. 書名 リハビリテーション書籍「わかる！できる！がんリハビリテーションQ&A」	

1. 著者名 川崎朋範，市原周	4. 発行年 2018年
2. 出版社 一般財団法人 名古屋大学出版会	5. 総ページ数 318
3. 書名 新版 細胞診断学入門 臨床検査技師・細胞検査士をめざす人のために．第3版．第11部 各論「5 乳腺」	

1. 著者名 川崎朋範, 菅井有, 市原周 (森谷卓也, 津田均, 編集)	4. 発行年 2016年
2. 出版社 文光堂 (東京)	5. 総ページ数 292
3. 書名 腫瘍病理鑑別診断アトラス 乳癌 第2版	

1. 著者名 川崎朋範, 市原周 (監修: 社本幹博, 越川卓, 編者: 横井豊治, 長坂徹郎)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 一般財団法人 名古屋大学出版会 (名古屋)	5. 総ページ数 in press
3. 書名 新版 細胞診断学入門 臨床検査技師・細胞検査士をめざす人のために	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>川崎 朋範 (Tomonori Kawasaki) - マイポータル - researchmap https://researchmap.jp/read0145980/</p> <p>教員情報 - 川崎 朋範 埼玉医科大学 https://mrc-gdb.saitama-med.ac.jp/smsbp/KgApp?resId=S003519</p> <p>神経内分泌乳癌の病理と臨床について教えてください。 http://nyugan.info/medical/qa/qa2/q2_14.html</p> <p>実践的細胞診断ワークショップ1 乳腺細胞診断ことはじめ https://www.intern.co.jp/jsc49aki/hand/pw1.pdf</p>
--

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考